



## ブダペスト点描

### 旅の始まり

成田発モスクワ経由、15 時間で私はブダペストにいた。8 月のこの街は、日本ほどではないものの、なかなか暑い。

さて、初めての個人旅行の始まりである。

### 交通機関

ブダペストの街には、トラム、バス、地下鉄が走っている。改札はなく、自由に乗って自由に降りる。覆面検札が来たら、迷わず「72 時間ブダペストカード」を見せればそれでオッケーだ。

綺麗な黄色のトラムに私は一目ぼれをする。ドナウ川からの風を受けながら、街をすり抜けていくのである。



地下鉄の入口

### アンドラーシ通り



アンドラーシ通り

宿泊先のアパートメントのあるアンドラーシ通りは、重厚な石造りの建物に挟まれた、しっとりと緑豊かな美しい通りだ。早朝、まだ暗いうちからジョギングをする人がいる。また、英雄広場へ続くこの通りには犬を連れた人も多い。大きい犬でもリードはつけない。彼らは皆お行儀がよく、旅人の好機の視線なんぞ気にもかけない。

### 市場

活気溢れる中央市場は朝 6 時には目を覚ます。

圧巻は野菜や果物の種類の多さだ。特産のパプリカは赤、黄、緑、白など色とりどり。形も長い丸いのとバリエーションが多く、目を奪われる光景だ。小規模の市場もあり、手作りのピクルスや搾りたてのオレンジジュースなども楽しめる。週末には牛乳売りが来て、皆ペットボトル持参で買いにくるそうだ。



市場

## ドナウ川



昼のドナウは想像よりもずっと力強い川だった。ほとりの建物、そして、いくつもの橋とのコンビネーションがこの川を特別なものになっている。

夜のドナウは幻想的だ。王宮の丘から見るドナウの川面にライトアップされた国会議事堂が映る。なんととってもくさり橋の美しさ。ドナウに真珠のネックレスがかかっているようだ。

## そしてハンガリアン

第一印象は無表情でこわいハンガリアンだが、実はとてもホスピタリティ溢れる人々であった。

前述の覆面検札官は、手を振る私にはにかんだ笑みを浮かべて振り返してくれ、温泉横のビールバーで、たまたま隣に座ったビジネスマンは、おいしいビールを指南してくれた。

また、タトゥーを入れた強面の市場の女性店主が、手早く野菜を量って売りさばく姿も印象的だ。外国人や年配の客がもたついても決していらいらした態度はとらないのも市場でよく見る光景だった。



## 旅の終わり

ブダペストでの滞在は実質3日間ではあったが、すっかりこの街の虜になってしまった。帰国後1か月以上経った今でもまだ夢の中にいる。

ブダペストはもう秋だろうか。

様々な季節のブダペスト、そしてハンガリーの郊外を旅する夢の続きを見ている。



郵便屋さんの車



ポスト



マーチャーシュ教会



市場のピクルス屋さん